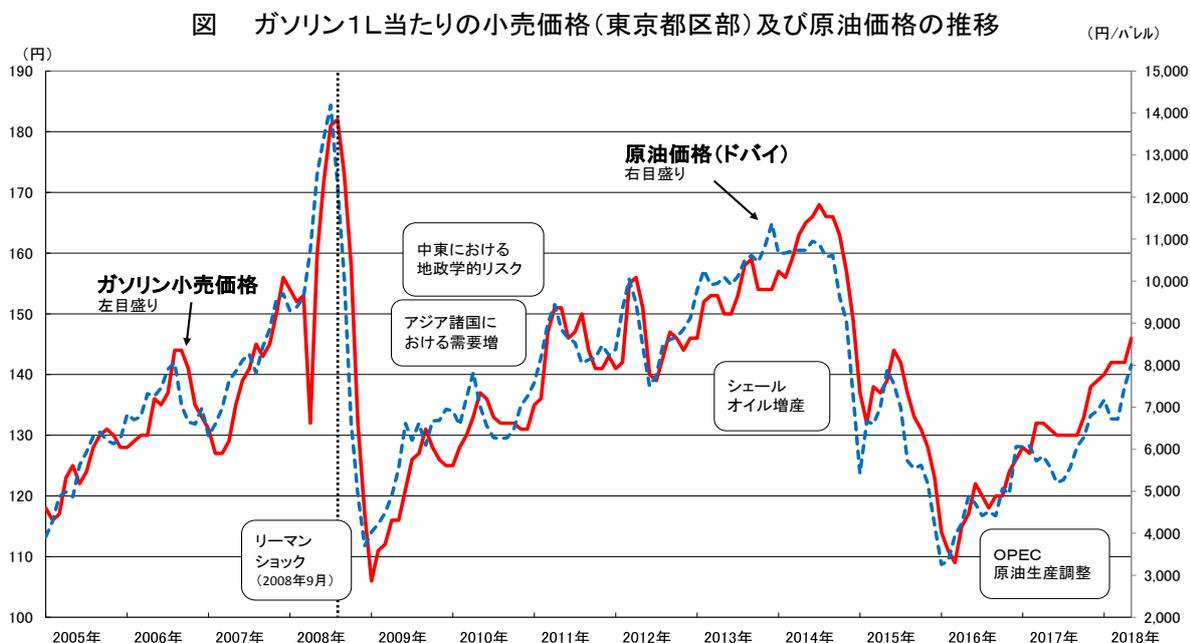


原油価格とガソリン価格の関係 ～小売物価統計調査の結果から～

もうすぐ夏休み。帰省やお出掛けなど外出の機会も増え、自動車を使うことも多くなる季節です。しかし近頃、ガソリン価格が上昇傾向にあると新聞などで報道されており、その動向が気になるところです。ガソリン価格の変動には、原油価格の動向等様々な要因が考えられます。

そこで今回、原油価格の動向にスポットを当て、原油価格の動向が、我が国のガソリン価格にどのような影響を与えるか見てみましょう。

図は、アジア市場の指標となる中東産ドバイ原油価格（※1、2）と、ガソリン1L当たりの小売価格（小売物価統計調査結果（東京都区部））の推移を示したものです。



出典：総務省統計局「小売物価統計調査」
日本銀行「時系列統計データ検索サイト」
World Bank Commodity Price Data

原油価格の推移

原油価格は、リーマンショックなどの影響により 2008 年に急落しました。2009 年以降は中東における政情不安や、アジア諸国における需要増などにより上昇傾向にありました。その後、2014 年には米国のシェールオイル増産などの影響により、原油価格は大幅に値下がりしましたが、2016 年以降、石油輸出国機構（OPEC）の原油の生産調整（減産）などの影響もあり、現在まで上昇傾向にあります。

原油価格とガソリン価格の関係

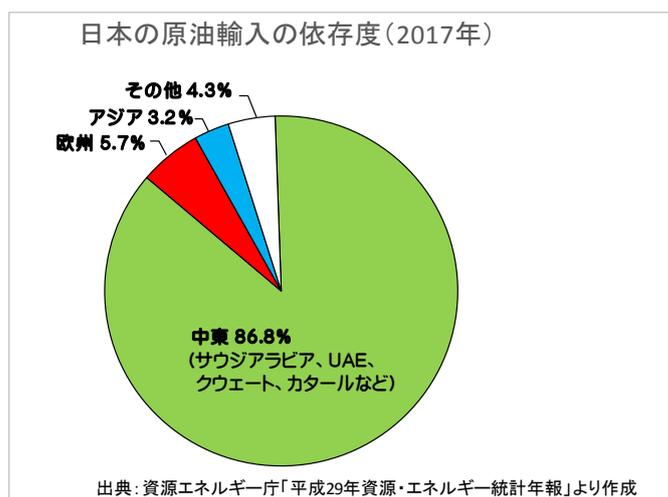
産油国から日本への輸送に時間が掛かることや、原油からガソリンへ精製する工程が必要なため、ガソリン価格が原油価格の変動の影響を受けるのは、1 か月程度後になります。図からもわかるように、原油価格が上昇（下落）すると、その後ガソリン価格も上昇（下落）傾向で推移しており、価格が連動していることがわかります。

自動車の移動に欠かせないガソリンの価格の動向を知るために、国際的な原油価格の動向に注目してみてもはいかがでしょうか。

(※1) 我が国の原油の輸入量は中東産が全体の 8 割以上を占め、原油輸入の多くを中東諸国に依存しているため、ここでは中東産の原油価格を比較対象としている（参考図参照）。

(※2) 為替変動の影響を抑えるため、円建ての価格を採用している。

(参考図)



(2018年7月6日掲載)